

研究の成果

センリョウの2年生枝を用いた挿し木法

1. はじめに

センリョウの増殖は、実生繁殖により行われていますが、個体間で形質が一定しない欠点があります。栄養繁殖法として挿し木法があります。慣行の挿し木法は、その年に基部から発生した1年生のシュート（1年生枝）を用いますが、ここでは2年生枝を用いた2節挿しについて検討しました。

2. 試験方法

挿し木は、2007年6月14日に行いました。供試材料は、2年生枝部とその腋芽が伸長して着花した当年生枝部を用い、対照として1年生枝を用いました（表1、図1）。挿し穂の基部にはIBA（0.5%）を粉衣し、鹿沼土を入れた育苗箱にプール挿し法（表紙写真）で行いました。2～3日間隔で手かん水し、自然日長下、遮光率90%で管理しました。

3. 試験結果

1本の2年生枝から採取できる挿し穂の本数は8.1本で、その内訳は上位腋芽区が4.6本、下位腋芽区が2.1本、2年生主枝区が1.4本でした。また、1本の1年生枝から採取できる挿し穂の本数は1.1本でした（表2）。

発根率は、全ての区で100%でした（表2）。

表1 試験区の構成

試験区	調製方法	採取部位(図1)
2年生枝 上位腋芽区	2節挿し ²	上位5節から伸長した腋芽部
下位腋芽区	2節挿し	6節以下から伸長した腋芽部
2年生主枝区	2節挿し	2年生枝部
1年生枝	頂芽挿し ¹ および2節挿し	

²2節を1本とし、1節には半葉を2枚付け、もう1節は葉を除去し腋芽を2つ付けて基部としたもの

¹腋芽を2つ付けた節を基部として、半分に切除した葉を4枚付け、先端から約5cmに調製したもの

表2 挿し穂の調製方法が発根およびシュートの発生に及ぼす影響

採取部位	採取本数 (本)	発根率 (%)	主根本数 (本)	枝根本数 (本)	最長根長 (cm)	根径 (mm)	シュート発生本数 (本)
2年生枝	8.1	100	4.3	0.5	3.5	1.2	1.9
うち上位腋芽区	4.6	100	4.4	0.7	3.9	1.3	2.0
下位腋芽区	2.1	100	3.4	0.3	3.8	1.0	1.9
2年生主枝区	1.4	100	5.3	0.0	1.7	1.3	1.7
1年生枝	1.1	100	4.8	0.6	3.1	1.2	2.0

注)挿し木日:2007年6月14日, 調査日:2007年8月13日

挿し木方法:プール挿し, 2～3日間隔で手かん水

主根本数は、2年生主枝区が5.3本で最も多く、下位腋芽区が3.4本と最も少なくなりました。シュート発生本数は、上位腋芽区および1年生枝区が2.0本で最も多くなりましたが、下位腋芽区および2年生主枝区との大きな差は認められませんでした。最長根長は、上位腋芽区、下位腋芽区がそれぞれ3.9cm、3.8cmで1年生枝区よりも長くなりました（表2）。

これらのことから、2年生枝部とその腋芽も挿し木に利用できることが明らかになりました。

4. おわりに

以上の結果、2年生枝を用いた2節挿しをプール挿し法で行うことにより、増殖率は慣行法の7.4倍と大幅に向上することが可能と考えられました。

(育種部 紺谷 均)

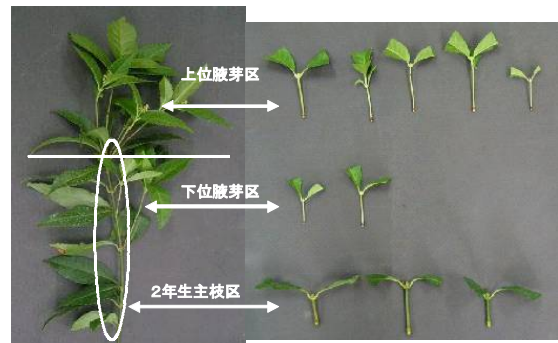


図1 2年生枝からの挿し穂の採取部位と試験区